

## 第7回 CODATA 国際会議の開催について

科学技術の進歩により人類の福祉の向上をはかるためには、基礎となる科学技術データが重要であることはいうまでもない。そのデータは正確で、信頼し得るものであり、また使い易い形にととのえられていなければならない。特に近年の情報処理技術の発達により蓄積されつつある大規模のデータには、これらの諸点が強く要望されている。

CODATA (科学技術データ委員会) は ICSU (国際学術連合会議) に設けられた学際的委員会であり、上記の重要性にかんがみ、全世界的見地から、自然科学の全分野にわたるデータの収集、評価、蓄積、検索を推進し、信頼し得るデータシステムの形成とその流通利用の促進とを目的として活動している。

この目的を達成するための事業の一環として CODATA は隔年に国際会議を開催しているが、すでに西ドイツ、イギリス、フランス、ソ連、アメリカ、イタリアでの開催を終え、1980年にわが国の京都で開催されることとなった。

この会議の内容は、CODATA 国内委員会、CODATA プログラム委員会が検討中であつたが今回大綱が次のようにまとめられた。

会議は10月8日より11日まで京都の国際会議場で行なわれる。報告は、招待講演、講演、ポスターセッションにより行なわれ、報告申込みの締切は1980年2月1日とする。

会議のテーマとしては「変動する世界におけるデータの役割」が選ばれ、基礎科学から現在社会が直面している重要課題への応用に至る広範囲にわたり、この問題が討議される。特に、

- (1) 現存データの活用による新科学概念の形成と問題解決
  - (2) 科学理論体系の発展に必要な新しい評価データ
  - (3) データ内容の批判、評価
  - (4) データの信頼性向上と科学的応用
- などが重点的に取り上げられる。

この討議のために世界各国から、またいろいろの学問分野を代表する科学者が集まり、下記項目などを主題とするセッションをつくりシンポジウムを行なう。

- (a) データのコンピュータ格納と利用
- (b) 大データベース
- (c) 熱力学データ、分光データ
- (d) データの工業的利用
- (e) 自然の、また人工的に制御された環境システム
- (f) 生物科学データ
- (g) 地球科学データ
- (h) データの保存、著作権、経済効率などの諸問題

会議には CODATA 加盟国である、オーストラリア、カナダ、西ドイツ、東ドイツ、フランス、インド、イスラエル、イタリア、日本、オランダ、ポーランド、スウェーデン、英国、米国、ソ連などの各国より、また、CODATA 加盟国際学術連合である化学 (IUPAC)、生物化学 (IUB)、生物科学 (IUBS)、生物物理学 (IUPAB)、栄養科学 (IUNS)、薬学 (IUPHAR)、結晶学 (IUCr)、力学 (IUTAM)、物理学 (IUPAP)、天文学 (IAU)、地質科学 (IUGS)、地理学 (IGU)、測地学および地球物理学 (IUGG) の諸国際学術連合から参加者が集まる予定である。

科学技術データの組織化と利用に関してはわが国は現在のところ残念ながら後発的立場にあり、この国際会議を機会に是非その立遅れを回復したい。科学の各分野の関心ある方々の御協力を期待する次第である。

なお、本国際会議に関心のある方、出席、参加を希望される方々にはサーキュラをお送りするので下記事項記入の葉書を送付されたい。

### 記

記入事項：氏名、所属、通信先、電話

送付先：〒113 東京都文京区湯島 1-5-31

第一金森ビル内 日本CODATA協会